京都大学新聞
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京都 京 8111 学内 直通 2441
(2) 2054
振替・京都3909
（1部 20円）

11・22首都総決起

入管闘争の全国的結合を

日米共同声明発表1周年にあたる22日、「日米共同声明路線粉砕、72年沖縄返還協定粉砕、日「韓」法的地位協定粉砕、入管法再上程阻止・入管体制粉砕、11・22労学市民総決起集会」が、午後2時より東京・明治公園において、全国反戦・全国全共闘・東京入管闘・ベ平連の四者主催の下、全国より約2万5千人を結集して行なわれた。この日の集会は、6月以来久しぶりの首都総決起闘争として、入管、沖縄、反軍闘争を軸に展開されてきた今秋期闘争の集約として設定され、さらに入管法国会再上程および日韓法的地位協定に基く「永住権」申請期限切れを前に入管闘争の全国的結合をかちとる闘いとして位置付けられた。

労学市民集会

この日労学市民集会に先立ち、十二時より全国全共闘、全国反戦、東京入管闘、ベ平連の各総決起集会が進行していたが、二時半から労学市民集会が開始され、全国反戦の今野世話人、東京入管闘の相澤氏を司会として、まず主催の四団体から発言が行なわれた。東京入管闘は二九年の闘いは月決戦へと成熟してゆく中で在日アジア人民の闘争の課題と無縁なものでなかった事を認めざるを得ない。7・7と10・8に集約され提起された課題が、日本帝国主義と日本人民、在日アジア人民の関係の中で如何に貫徹されてゆくか日々問われている。様々な入管実体に対する闘いを現在的に、在日朝鮮人民の無条件居住、祖国往来の自由を集約し、在日アジア人民の闘いをわれわれの闘いとして据ってゆかねばならない。そして現実的に要求されている密集した組織体制を獲得してゆく中から、12・18目韓闘争の敗北から五周年の闘いを、入管闘争の集約的闘いとしてかちとってゆく、ことの間の闘争の総括から現実的課題を提起した。

ベ平連の鶴見良行氏の発言に続き、全国反戦を代表し鈴木達夫氏から「われわれの闘いは大きな岐路に立たされている。在日アジア人民の在住への無自覚を厳しく自己批判し、帝国主義本国人民という矛盾した存在を通説し在日アジア人民の闘いへの無条件の支持と防衛から、入管体制粉砕の闘いを在日アジア人民の解放へむけて闘いぬかなければならない」の決意表明が行なわれた。

続いて全国全共闘代表し、一年二ヵ月にもわたる長期の不当拘留にもかかわらず再度の戦線復帰をかちとった山本義隆書記長より「昨秋期政治決戦の爆発にもかかわらず、学生戦線の不充分性は、決戦をエ共闘として闘いえなかった事とのアピールがなされた。

続いて各団体からの発言に移り三里塚空山軍会港反対四盟より、12・6闘争への全国からの結集集が訴えられ、北富士・恩草部会からは米軍の実弾演習阻止闘争の報告が、更には反反戦を代表して西敏一氏、そして10・11月決戦統一被告団より「分離公判過行粉砕、統一公判実現」へむけての決意表明がなされた。

続いて、入管闘争を闘っている各戦線からの発言として、入管当局の「再留延長不許可」に抗して闘っているマクリーン氏、劉彩品支援都連絡会議、東京北部地区入管体制粉砕実行委、南部地区入管体制粉砕実行委からのアピールが行なわれた。

劉支援全都連絡会議は「劉彩品さんの『日本人は何ゆえ支援の闘いをくみ、何を奪ったのか』という提起を受けとめ、劉支援闘争の総括から、現在、在日中国人一世として、法律二二六条の適用を要求し闘っている弘台湾君支援の闘争を担っていくこと」と運動の方向性を提示した。最後に、集会アピールとローガンが満場一致で確認され集会を終了した。

全国全共闘集会

12・12～14　於・京大
全学新全国大会招請さる

全日本学生新聞連盟（全学新）臨時執行部は、十九日全体会議を催し、来月十二日から三日間、京都大学での開催が予定されている第二十五回全国大会に向けて、各地域での討論の進行、組織化の状況を点検した。

全国大会へ向けて、ひとつの課題とされていた東京都一関東段階での組織化の問題は、「都学新準備」をいちおうタナ上げにしたままでの「準総会議」設立となった。

今回全共闘の集会は、司会の東大全共闘の鈴木君の「日米共同声明一年にあたり、全国から結集集したわれわれの闘いは帝のアジアへむけた侵略の総路線との対決としてあるべき反戦的任務はあるゆる課題における戦線の拡大と、その課題の結合をかちとってゆくことである」の発言をもって開始された。

発言は、全学連（全学連委員長＝中核派系）、日本反帝戦線、国際主義共産学生同盟、プロレタリア学生同盟、全国反帝学生戦線連合（フロント系）、全国学生解放戦線、全学連（人城委員長＝プロ社派系）の各派より行なわれた。

全学連（全学連委員長）からは「日帝のアジア侵略体制構築へむけた攻撃は、入管体制のもとで、プロレタリアートを排外主義の嵐に動員せんとしている。入管体制は、ブルジョアジーに強要された労働者人民の知・無自覚により支えられている。・入管法再上程阻止日韓法的地位協定粉砕、祖国往来の自由獲得」のスローガンのもとに入管闘争制粉砕へむけて闘っていく。」と入管闘争を全主軸として発言があった。

日本反帝戦線は「日米共同声明をもって日帝は東南アジアにおける戦略革命の主軸として登場せんとしている。三次防・四次防計画のもと、沖縄への自衛隊派遣等、軍事的交渉線に対決する新軍事同盟の強化を進めている。」と、「新軍事同盟の強化に対して、入管闘争は国際的連帯を通じて、入管体制とたたかわず国籍書換運動を断固として展開してゆかねばならない。」とアピールした。

最後に全学連（内城委員長）より「ニクソンドクトリン・日米共同声明を葬り、アジア太平洋帝アルジョアジーは七十一年五月朴三選、七十二年沖縄返還をはじめとする階級攻防戦をアジア諸国のファシスト政権との反革命連帯をもって乗りきらんとし、入管行政のファッショ的改編はこの一環としてある。われわれは本日の闘いを入管法再上程阻止、『韓国籍への書き換え強要』粉砕、日韓・在米反革命国際同盟粉砕の闘いとして展開する。」と決意表明を行ない、この発言をもって学生集会を終え全体集会に合流していった。

一方、十二時より全国全共闘集会にならんで行なわれた全国反戦総決起集会は、三重県反戦青年委の司会のもとに、宮城県、埼玉県、徳島県、神奈川県、群馬県の各反戦青年委員会および大阪市藤反戦青年委の発言があった。更に、特別報告として、「戦闘的少数派組合」として結成された長崎造船新労働組合より、この間の闘争報告と新労組結成の意味がアピールされ、満場の注目を集めた。

全国反戦集会

旗竿で突撃—投石戦
機動隊、催涙弾を乱射

デモは、青山三丁目—原宿付—渋谷—池袋—国会周辺—芝公園の三コースで終結。戦闘的に展開された。各地区反戦、国学、日大全共闘をはじめとした各大学全共闘の部隊は、青山三丁目で阻止線をはる機動隊に対し、激しいジグザグ行進をもって衝突をくり返した。更に通常一ばいの二千列の隊列をもって迫ってきた解放派の部隊は、鹿ヂオを先頭に正面から機動隊の頭上線に突入し、数度にわたり機動隊の壁を突破するなどして激しい衝突をくり返し、数名の不逮捕者を出した。

その後、増援された機動隊の不当な併進規制に対して、赤旗見付、国会周辺で再三にわたり衝突をくり返した。更に七時ヂモ解散地点付近においては、各大学全共闘、解放派の部隊を中心に、機動隊の併進規制を原形オ部隊の突撃により粉砕し、激しい投石戦を展開した。これに対し機動隊は催涙弾を乱射し、規制しようとしたが、旗竿部隊による殺虫の突撃と、激しい投石により、十数個のジュラルミンの楯を失し後退させるを余なかった。その周辺では約三十分にわたり、ゲリラ戦が展開され、交番に対しても激しい投石が加えられた。

その後各部隊は公園にはいり総括集会を行なった後、八時過ぎに解散していった。この日の闘争において十名が不当逮捕された。

なお、この日の部隊の闘争には、京大よりの約百人の部隊が参加した。教養部戦線、一回生共闘学部闘争委会は約五十人は十二時より東大・安田講堂前において集会をもち、「京大における大衆運動の質を全国の大衆の前に明示する」という事を意思統一した後、明治公園に結集した。

明治公園において、教養部戦線は国学・全共闘の集会に結集せず、同志社全学闘七十人、赤軍派三十人と統一集会をもった。その後、京大の部隊は、医学部闘争委、現中研、労研、IL共闘などの部隊を加えて、公園内で独自集会をもった後、全国全共闘の部隊とともにデモに出発した。

四時ヂ過ぎ、那覇港に到着した隊列は総括集会に移り、なかでも労行なった。午前九時半ごろ約五十名で那覇市・神原小学校の授業所にデモをした後、投票所に突入し、投票ボイコット運動の徹底的な妨害を試みた。

午後には、約二二〇名で行なわれた沖縄闘争のスローガンが、本土のように『沖縄闘争勝利の次元をつらぬき戻されてはならない』との主張を共同のものとし強調し、中核派との共同行動を拒否した。

この日、沖縄大学自治会は、両者の集会に参加し、独自のデモンストレーションを展開した。琉球大学反戦連合も、この日、独自で集会、デモを行なった。

沖縄

国政参加粉砕共闘会議
投票ボイコット行動
沖縄闘争の鮮明化へ

那覇・本紙特派員発

この国政参加粉砕共闘会議は、去年革命派内部において左翼倒的に少数派ながらも、漸く労働者階級の独自利害を突出しうる部隊として形成されようとしている。

国政参加選挙投票日の十五日を迎えた沖縄現地では、「革新勢力」をまきこんでプロレタリアートの一体化闘争としての選挙戦一色に塗りつぶされようとするなかで、「国政参加粉砕・投票ボイコット」を鮮明に掲げた部分が登場した。

投票日に先だち、十四日午後四時前から「国政参加粉砕・投票ボイコット貫徹行動」が国政参加粉砕共闘会議（国粉共）の主催で与儀公園に約五〇名をあつめて行なわれた。

集会で学生共闘会議・労働者共闘会議・高校生共闘会議から、今までの闘いの報告と、既成革新への弾劾、今後の決意表明が行なわれ、四時すぎ、デモをうった。姫百合通り、安里、国際通り、政府前を経て、与儀公園まで、市内の繁華街を一周「糾」を粉砕すべく選挙粉砕・投票ボイコット貫徹」のシュプレヒコールの前に数分間沈黙させるを得ず、選挙に埋没している革新勢力と、「一体化路線」を粉砕すべく選挙粉砕・投票ボイコット貫徹」のシュプレヒコールの前に数分間沈黙させるを得ず、選挙に埋没している

各戦線から提起

大阪　11・20全関西大統一行動

二十日、大阪大手前公園において、11・22首都総結集へ向けた「日米共同声明一周年　11・22首都総結集　全関西大統一行動」が、四二〇〇名（主催者発表）が参加して行なわれ、京大からはC闘争はじめ約百名が結集した。

集会場では、この間緊張のたかまっている革マル派との党派闘争に備え、各党派は三時頃から結集し、それぞれ独自の集会を開いたり全学内をデモンストレーションしたりして結集していた。

学生の大部分が結集した四時半すぎから、学生統一集会が開始し、全学連（金山委員長＝中核派）反帝学生戦線（フロント）、学生インター、反帝学評、反帝戦線（ブロ学同）、反帝学評、反帝戦線の各党生党派から、「今秋闘沖縄・入管・反軍闘争の意義」「11・22首都総決集へ」の主題で、「沖縄返還協定粉砕」「佐藤訪米粉砕」「日米安保破棄」「入管法粉砕」「自衛隊解体」「大学管理法粉砕」「学生運動への弾圧粉砕」「全国学生の団結」「全国学生の闘争」「全国学生の連帯」「全国学生の共闘」「全国学生の統一」「全国学生の結集